



## MAGIC-P strategy 包括的栄養管理について

(シリーズ第5回 全6回)

栄養サポートチームでは本通信で勉強会の概要をお伝えし、より多くの方々に栄養管理について関心を持っていただきたいと思います。

今回の講師は前回に引き続き、救命救急センター山口順子医師（NSTディレクター）でした。

## Calorie 適正カロリー投与

- ・代謝動態は患者個々によって異なります。また侵襲で大きく変動します。
- ・エネルギーの過量投与は代謝負荷となり、エネルギー不足は異化の亢進を招きます。
- ・飢餓と侵襲で生体反応は異なります。
- ・まずは、主観的包括的栄養評価で栄養障害の程度を把握しましょう。



## 主観的栄養アセスメント

- 体重:どれくらい減ったか?が重要(過去6カ月、最近2週間)
- 食物摂取パターンによる変化:食生活の変化は?  
固形食品摂取か?  
食事は?  
食事は変化したか?
- 消化器症状:とくに15日以上悪心・嘔吐・食思不振・下痢に注意
- 機能性・エネルギーレベル:普段と今の身体活動について
- 疾患の活性レベルと影響:ほとんどの疾患で代謝必要量が増加(カロリー必要量も蛋白必要量も)
  - ・軽度ストレス 例:そけヘルニアのみで他の合併なし
  - ・中等度ストレス 例:糖尿病患者さんが肺炎
  - ・高度ストレス 例:重篤な腹膜炎
- 身体検査:皮下脂肪の喪失・踵部の浮腫・仙骨の浮腫・腹水

MAGIC-P 戦略をこれまで聞いていただいて...

これまで5回で、「病」に打ち克つ栄養管理にはさまざまなファクター(M.A.G.I.C)があるという概念についてお話させていただきました。

さまざまな栄養管理のテキストや文献には、細やかな栄養管理目標の数値が書かれていることと思います。

こうした数値を頭において科学的に臨床を行うことは、とても大切な姿勢ですが、(M.A.G.I.C)は、簡便な指標で低栄養に向かう患者さんを速やかに抽出する効果的な方法であると思っています。

なぜなら...

- \* 我々は常に変化に適応している *Homeostasis*
- \* 代謝変化は生体が生存するために与えられた調節能力
- \* 患者は今日も身を削っている

(M.A.G.I.C)はこれを支えるための包括的栄養療法です。概念や方法を参考に、もし困ったことなどありましたら、NSTを利用してください。

2010年1月のNST勉強会は、  
1月21日(木)17時30分～ 第2臨床講堂です。(いつもと場所が異なります)  
これまで半年間かけてすすめてきた(M.A.G.I.C-P)の最終回です。  
NSTスタッフである、リハビリ木村忠彰技術長より、Physical therapy (早期理学療法)の話題を中心に講義いただく予定です。

